6/8の読売新聞（書評）につづき

社会 御担当者様

寿郎社の新刊案内

〒060-0807 札幌市北区北七条西2丁目37山京ビル
電話011-708-8565 FAX011-708-8566
メール：info@jurousha.com サイト：www.jurousha.com

6/27（金）北海道新聞の社会面で大きく紹介されました
積極的な平積み販売をお願いいたします

北海道新聞 2025年（令和7年）6月27日（金曜日）

炭鉱の悲哀 現代に問う

元NHK・末さん 「石炭挽歌」出版

道内での事故取材記録

元NHK札幌放送局アナウンサーの末利光さん（92）＝甲府市在住＝が昭和40年代の炭鉱取材の記録「石炭挽歌（ばんか）」（寿郎社）を出した。事故の詳細や産業の盛衰、暮らしについて記しており、国策のあり方についても考えさせられる。

「石炭挽歌」を出した末利光さん。NHK札幌放送局アナウンサーとして、道内で相次いだ炭鉱事故を取材し、現場実況などを担当した

末さんは1967年（昭和42年）から71年（46年）までNHK札幌局に勤務。美唄や赤平、歌志内、夕張などで10件の炭鉱事故を取材し、現場中継などを担当した。本書によると、10件の死者は合計で100人を超えた。この間、道内でさらに起きた他の炭鉱事故も含めると、死者数は584人に上る。

本書は炭鉱内の切り羽や炭鉱住宅、各種裁判などの様子、自身の思いを「事故の科学」「落盤と山はね」「女性たち」など20章に分けて掲載。鉱員や家族、科学者らの証言を交えて残酷な炭鉱事故の実情を伝えた。

既に衰退の道をたどっていた石炭産業。国のエネルギー政策と歩調を合わせられる北炭など財閥系大資本だけが残ったが、それらの近代的な炭鉱でも事故は起きた。

生産性優先で労働者の命が削られる現場。夫や息子が残る坑道での火災では「鎮火のため注水される時の家族の悲嘆が今も脳裏に焼き付いている」と振り返る。また、81年10月の北炭夕張新鉱ガス突出事故は道内炭鉱事故で戦後最悪の93人が犠牲になった。末さんは札幌を離れていたが、炭鉱の「終焉（しゅうえん）」になると予感して取材。本書にも収録した。

末さんは「生産性優先の国策と収益優先の大資本のもとで迷走した。その非人間性は現在の原子力エネルギー政策に重なる」と指摘。「私が消えれば失われる記録。だからこそ伝えたかった」。四六判、264ページ。2530円。（山本哲朗）

ご注文 をお願いします。 寿郎社FAX011-708-8566まで

〔注文短冊〕

地方小出版流通センター取扱品

書店名（番線）

御担当者名

発行所	編著者名	本体価格（税抜）	発注日
寿郎社	末 利光 著	2300円	月 日

注文数 冊

書名 石炭挽歌 NHK札幌放送局〈炭鉱事故〉担当アナウンサーの記録

ISBN978-4-909281-69-2

個人注文票 個人が注文する場合は1冊数2お名前3郵便番号 ご住所4電話番号をここに書き、書店にお持ちいただくか寿郎社までFAXでお送りください。寿郎社にご注文いただいた場合は1冊300円の送料がかかります。

お名前 郵便番号 ご住所 電話番号 （ ）